



タイ王国は、数年来、内紛が続き「微笑みの国」どころか市街地で銃弾が炸裂する物騒な国と化している。私は、6年前から北部のチェンマイに魅力を感じ、年のうち4割方は滞在することにしてしたが、3年前にクーデターによるバンコク国際空港の占拠のために帰国できないことがあってから、彼の地に行くのは少なくなった。とは言え、乾季の11月頃のチェンマイは過ごしやすく、また11月の最初の満月の夜に行われるロイカトーン祭の幻想的な賑わいが好ましく思われて、12月までの1月間は、毎年彼の地に滞在する。内紛は、主に首都バンコクの一部で流血事件になり、チェンマイは静かで何事もないように見えるのだが、実はチェンマイこそが、タクシン元首相の地盤であり、赤シャツ派の拠点なのだ。私が滞在する友人のピンポン氏宅は旧市街地の真ん中にあり、200メートルほどのところに大伽藍ブラシン寺があり、その裏に赤シャツ派の事務所がある。ここでは、毎日集会が行われ、間違っても黄色いシャツ（首都バンコクの富裕層などによって構成された守旧派）を着て周辺をうろついてはならない。タクシン氏は

華僑系の出身。初期の携帯電話の普及期に一気に財を成した新興派で、王政廃止や仏教軽視の思想の持ち主である。バンコクの守旧派にとっては我慢がならない人物で国王も嫌っているらしい。このような人物が地方で支持される理由は、首相の時代に地方の貧しい層にばらまきを行ったからだという。守旧派は、脱税容疑などでタクシンの追放に一旦は成功したものの、総選挙をすればタクシンに利がある。現政権は選挙の結果成立したのではなく、クーデターで成立した。タイ国の歴史をたどれば、この国は、世渡り上手な東南アジアの優等生という評価が定着していた。この国は、有能な人物を国の内外を問わず登用し（山田長政の例、映画「王様と私」など）、大国の勢力を上手く拮抗させてバランスをとり、そのどちらかを運命を共にせざるを得ないときはより有利な方を見極めて選択した（柿崎一郎。タイの歴史より）。

歴代の為政者が賢明であったために、植民地にならないで済んだが、市民革命を経験していない。今なお、市民の権利意識は低く、ばらまきが選挙の票に直結する。

この秋に総選挙を行うというが、早く東南アジアの優等生に戻ってほしい。

母校を訪ねて・・・都甲栄充



本年4月上旬 約8日間を駆け車で 妻と往復2800キロの旅に出かけました。西からの桜前線に立ち向かうかたちになり車窓からの様々な様相の桜に感動を覚えました。息子の住む「愛知県刈谷市」、妻の実家の「下関」、私の郷里「北九州」、会社員として住んだ「福岡市」、それから帰路に城下町「萩」に立ち寄り無事帰京しました。昨年8月60歳定年退職後 一級建築士事務所を開設しました。自由な時間は十分ある為、車旅行にしたのです。

北九州は誕生から高校卒まで過ごし、父は八幡製鉄に勤務していて、まさしく高度成長時代ただ中を煙突の煙と共に過ごした思い出深い場所です。私は地元の進学校 小倉高校に入学し 約650名の友と勉強しました。県立高校ですが文武両



立を目指し 甲子園選抜大会に在学中2度出場し、過去にも全国優勝の経験もあります。県立なのに立派な野球部専用球場をもち、在学中には立ち入り足跡1歩も残すことができぬほど整備されていました。

卒後42年思い切って校内に足を踏み入れました。古い校舎も現存していてとてもその当時の思い出が脳裏をよぎりしばし目を閉じていました。

高校敷地に隣接している同窓会事務所を訪ねましたが創立百周年記念で新築され立派な歴史資料館もあり、勿論甲子園での優勝旗のレプリカも掲示してありしばしたたずみました。学友も定年を迎え「第2の人生」を歩み出す方も多いとおもいます。私のように定年後訪問される人が多いそうです。

帰りに同窓会名簿を購入し、ページをめくりながら友の顔を思い出しながら時を過ごしている今頃です。

どうか友よお互い健康で長生きし、少しでも様々な経験・知識・ノウハウを世の中の為に恩返しを込めて還元し、心豊かな人生を全うできるように再度頑張ります。